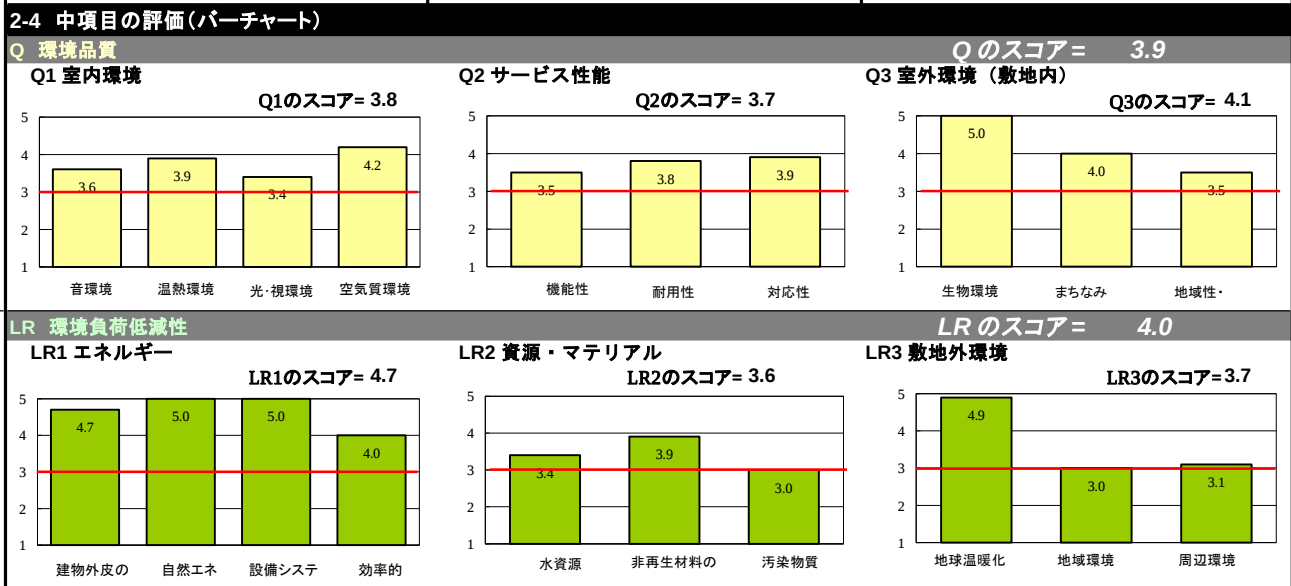
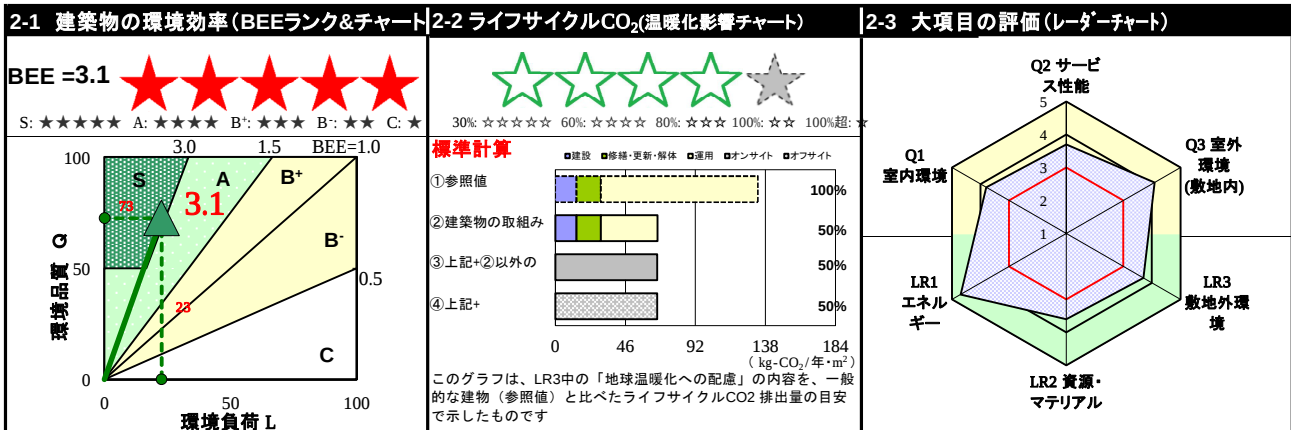


1-1 建物概要				1-2 外観	
建物名称	(仮称)教育研修施設新築計画(研修実習棟1)	階数	地上3F		
建設地	大阪府箕面市栗生新家及び栗生間谷西	構造	S造		
用途地域	第二種中高層住居専用地域	平均居住人員	480 人		
地域区分	6地域	年間使用時間	1,820 時間/年(想定値)		
建物用途	事務所,	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2027年7月 予定	評価の実施日	2025年7月23日		
敷地面積	64,359 m ²	作成者	株式会社 日建設		
建築面積	11,008 m ²	確認日	2025年7月23日		
延床面積	21,197 m ²	確認者	株式会社 日建設		



3 設計上の配慮事項		
総合 BEI=0.38であり、省エネ性の高い設計。 広大な屋根を活かした太陽光発電・雨水貯留・クールヒートトレント、トップライトを計画。 自然光と緑を取り入れた共用部による、ウェルネスな空間の創出。 コンクリート、デッキPL、溶融亜鉛めっき材など、耐久性が高い材料選定。		
Q1 室内環境 トップライトやブラインドを採用し、快適な室内環境の構築に配慮した。 中庭を設けることで、自然採光と緑を取り入れる。	Q2 サービス性能 交流を促進するイベントや取り組みを行えるコンスペース・ダイニングスペースを確保している。	Q3 室外環境(敷地内) 中庭やテラス・植栽・ビオトープ、トップライト等、豊かな緑環境と中間領域を形成する。
LR1 エネルギー BEI=0.38、BPI=0.83、省エネに配慮した計画。 トップライト、クールヒートトレント、太陽光発電を採用しており、自然エネルギーを多く利用する計画とした。	LR2 資源・マテリアル 躯体のみならず、内装材にも積極的にリサイクル材を取り入れる。	LR3 敷地外環境 雨水流出抑制対策を実施。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

【建物概要】 建物名称		(仮称)教育研修施設新築計画(研修実習棟1)								
建設地		大阪府箕面市栗生新家								
用途／区分		事務所								
【評価結果】	CASBEE 総合評価						S			
①	CO2削減						5			
②	みどり・ヒート アイランド対策						4			
③	断熱性能						5			
	建築物省エネ法に基づく 省エネ性能ラベル	住宅(住棟)又は 複合建築物の住宅部分	評価対象外					評価対象外		
④	エネルギー消費性能						5			
	建築物省エネ法に基づく 省エネ性能ラベル	住宅(住棟)又は 複合建築物の住宅部分	評価対象外					評価対象外		
		非住宅建築物又は 複合建築物の非住宅部分						6		
⑤	自然エネルギー直接利用						○			
	再生可能エネルギー	太陽光発電	○	風力	—	地熱	—	地中熱	○	
	利用施設の導入状況	太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—		—	

	エネルギー消費量の報告	報告しない
--	-------------	-------

【評価項目】			
項目	評価内容	スコア	評価
① CO2削減	CASBEE LR3 敷地外環境 1. 地球温暖化への配慮	4.9	5
② みどり・ヒートアイランド対策			
生物環境の保全と創出	CASBEE Q3 室外環境(敷地内) 1. 生物環境の保全と創出	5.0	4
敷地内温熱環境の向上	CASBEE Q3 室外環境(敷地内) 3. 2 敷地内温熱環境の向上	4.0	
温熱環境悪化の改善	CASBEE LR3 敷地外環境 2. 2 温熱環境悪化の改善	3.0	
③ 断熱性能	CASBEE LR1 エネルギー 1. 建物外皮の熱負荷抑制	4.7	5
④ エネルギー消費性能	CASBEE LR1 エネルギー 3. 設備システムの効率化	5.0	5
⑤ 自然エネルギー利用	CASBEE LR1 エネルギー 2. 自然エネルギー利用	5.0	○
エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。	報告する 報告しない	報告しない

その他		
先進的技術の導入	技術の名称	考慮事項
特に配慮した事項	BEI=0.38、BPI=0.83、省エネに配慮した計画。 トップライト、クールヒートトレンチ、太陽光発電を採用しており、自然エネルギーを多く利用 する計画とした。	